

癒しのトイレ研究会 研究誌11号によせて

心身ともに元気になるトイレをめざして



癒しのトイレ研究会 会長
高柳 和江
文京学院大学 客員教授
癒しの環境研究会 代表世話人

英国王立外科学会は、1800年からずっと、外科医の学術的な修練の場として、格式を保っています。外科医の肖像画・彫像が所狭しと並び、会議場にもそれぞれ由緒正しい家具調度が並んでいます。

ところが、トイレは、うって変わって近代的で、中には3畳くらいの絨毯敷きのコーナーがあり、椅子が並べてありました。壁には、外科学によって、患者がいかに助かったかの教育ポスターを掲出。また、友人の英国人宅の客用トイレには、家の主人がエリザベス女王に勲章を授けられた時の写真など、多くの格式ある額縁写真が飾ってありました。

トイレは、何かを示す場であり、勉強の場であり、語り合う場でもあります。人間が心身ともに、より元気になるところなのです。

日本の病院のトイレは、温水洗浄便座を備え、いかに狭く機能的にするかに焦点を当ててきました。しかし今後、高齢社会に向けての問題点は、高齢者の排泄に至ります。幸せな排泄は、幸せな生き方である。便器に腰を下ろす時間の長い高齢者が、幸せな時を過ごせるように考えるべきです。トイレで排泄する努力をしながらも、リハビリパンツを使ったり、パットをあてる高齢者が増えることを考えれば、十分な場所も小さなテーブルも必要です。癒しのトイレ研究会も、今後は病院だけでなく、高齢者施設にも新しい発想で、安心して居られるトイレ環境づくりに取り組んでいきたいものです。

癒しのトイレ研究会とは



より良い病院・福祉施設のトイレ環境づくりを目指して、トイレ関連企業が結束して2000年に発足しました。発足以来、調査・研究を重ねて毎年研究誌を発行し、学会発表や各種セミナーなどを継続してきています。

癒しのトイレ研究会のホームページ

<http://hospitality-toilet.jp>

病院・福祉施設のトイレづくりに役立つ、さまざまな情報を掲載しています。

- 病院トイレの豊富な現場実例
- 病院トイレづくりのポイント
- 清掃やメンテナンスの方法



癒しのトイレ研究会の研究誌

癒しのトイレ研究会は発足以来、病院トイレづくりの調査・研究の成果をまとめた研究誌を、毎年発行しています。ホームページから閲覧、取り寄せができます(無料)。

